

## ○3月は始まりの月!

むかしむかし、1年の始まりは3月で、2月が終わりの月でした。月の満ち欠けの関係から残りの28日が2月に割り当てられました。元々、1・2月は寒いので何もせず、3月から農耕や戦争がスタートしていました。そのうち、寒い1月からでも戦争を始めるようになり、1年の始まりが1月に移行したようです。

さて、3月1日は卒業式です。昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響で、下級生が出席することはできません。それでも、3年生が卒業すると、2年生が最上級生となります。部活動では、すでにリーダーとして練習や大会等で頑張っているとは思いますが、学校生活のあらゆる場面でも模範となって行動することが求められます。「どうせ、自分なんか…」とは思わず、必ず誰かに見られていることを意識して行動しましょう。そして、これから起こるほとんどのことが、高校生活で最後になってしまうかも知れないということも意識しておきましょう。それだけ、高校生活とは短いものです。

1年生についても、4月に新入生が入ってくる前に、上級生になる準備をしっかりとしましょう。具体的に何をするかは自分で設定してください。何でもいいので、自分で決めて継続してやるのが大切です。

急にトップギアに入れず、「慣らし運転」「助走期間」として、3月を過ごしてみたいはいかがですか？

## ○家庭でできる「やる気スイッチ」の入れ方

3月は一般入試等の関係で、家庭で過ごす時間が増えます。そこで、この機会を利用して家族との会話を増やしてもらい、新年度へ向けて“やる気スイッチ”をONにしてもらえればと思います。

やる気になるのはどんな時か

- |                         |                                  |
|-------------------------|----------------------------------|
| 1 あれ!/? うそ! という感情が起こった時 | 2 へえ! という感情が起こった時                |
| 3 分かりそうで分からない時          | 4 面白さを感じる時                       |
| 5 はっきりと途中経過が分かる時        | 6 先が見える時                         |
| 7 やり方がはっきり分かる時          | 8 挑戦できる時                         |
| 9 褒められる時                | 10 分からなかったこと、できなかったことができるようになった時 |

例えば、「発問」という方法があります。“上”という漢字の書き順を確認してみてください。「うそ!」「へえ!」という感情が起きればチャンスです。また、「バスの運転手はどこを見て運転していますか？」など、まだ免許を持たない生徒の知識欲を刺激してみる方法もあります。

「やってみせ、言ってきかせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」という山本五十六氏の言葉がありますが、保護者が知っている知識を子どもに示し、やらせてみて、できたら喜びを共有して褒めてあげると、たとえ高校生であっても、嬉しくなってモチベーションは上がります。

最近では、どのテレビ局でも毎晩のようにクイズ番組が放映されています。自分の部屋に入って、YouTube等の動画を観たり、1人でゲームに興じるよりも、家族みんなが集まって様々なクイズに挑戦してみませんか? 「お父さん、こんなこと知ってるの!」「お前、すごいなあ!」と、互いができたことに感嘆し合い、家族の中で発見する機会が生まれれば、「やる気スイッチ」が入るきっかけになるかも知れません。大人であろうと、子どもであろうと、“気づき”や“学び”はいつ起きても構いません。

スイッチONの状態が続いていると、様々な変化を愉しむことができます。

**“今を変えなければ、未来は変わらない。”**

by 五郎丸 歩(ラグビー元日本代表)